

古賀市地域公共交通網形成計画〔概要版〕

【古賀市が目指す将来像】

古賀市の将来都市像：第4次古賀市総合振興計画

- 【めざす都市のイメージ】 つながり にぎわう 快適安心都市 こが
- 【公共交通に関連する方針】 JR3駅を拠点とした“歩いて暮らせるまちづくり”の推進

都市づくりの将来像：古賀市都市計画マスタープラン

- 【都市づくりの理念と目標】 “うみ”と“やま”の自然を大切に作る都市づくり “さと”のゆとり環境と潤いを保つ都市づくり
“まち”の利便性と魅力を高める都市づくり “まち”と“さと”をつなぐネットワークづくり
- 【公共交通に関連する方針】 ①JR駅周辺の整備 ②公共交通ネットワークの確保

【古賀市における地域公共交通の役割】

〔役割1〕 JR3駅へのアクセスの確保によって、人の活発な行き来や都市活動の活性化を促し、古賀駅を核とした活気とにぎわいあふれるまちづくりを支える

〔役割2〕 自由に移動することが困難な高齢者等の日常生活の移動が確保された、誰もが快適・安心に暮らせるまちづくりを支える

【解決すべき課題】

課題① 市内の外出先へのアクセスを支えている路線の維持・確保
市民生活を支えていくため、今後も路線バスを維持していくことが必要

課題② 路線バスでは行けない外出先へのアクセスの検討
市外への外出等、市民の移動の実情に合ったアクセスの検討が必要

課題③ JR各駅へのアクセスの維持・確保
様々な交通モードでJR各駅にアクセスできる環境整備が必要

課題④ 高齢者の移動手段の確保
高齢者のニーズに対応した移動サービスが必要

課題⑤ 細やかな移動サービスの必要性の検討
路線バスに代わる細やかな移動サービスの検討が必要

課題⑥ 運行効率化に向けた運行サービスの見直し
運行効率化により収支状況の悪化に歯止めをかけることが必要

課題⑦ 運行の円滑化に向けた運行内容の見直し
より円滑に運行できるよう運行内容の見直しが必要

課題⑧ 維持確保に向けた利用促進の展開
維持・確保を図るため、利用の促進が必要

課題⑨ 維持確保に向けた市民の参画
市民の興味・関心を高め、維持確保に向けて市民が参画していくことが必要

【地域公共交通のあり方(基本方針)】

基本方針1
市外への外出を確保する
鉄道・広域路線バスの維持
及び駅の交通結節機能の強化

基本方針2
利便性と効率性が確保された
市内交通ネットワークの構築

基本方針3
移動ニーズに細やかに
対応する交通サービスの確保

基本方針4
公共交通の持続可能性の向上
に向けた取組の推進

【具体的に取り組む施策・事業】

施策1. 交通ネットワークの再構築

- 1-1 現行路線の見直し(階層化)
 - ①西鉄バス古賀市内線・コガバスの一体的な見直し
 - ②乗り換えしやすいダイヤの設定
- 1-2 対応する移動ニーズの拡大
 - ①新たな技術の活用に向けた調査・研究
 - ②市外への移動ニーズへの対応に向けた検討

施策2. 公共交通を利用しやすい環境の整備

- 2-1 駅や主要停留所における待合環境や案内誘導の整備
- 2-2 公共交通に関する情報周知の強化
- 2-3 多様な交通サービスの一元化に向けた調査・研究
 - ①情報の一元化に向けた調査・研究
 - ②新たな料金体系や支払い方法の導入に向けた調査・研究
- 2-4 車両更新時におけるユニバーサルデザインに配慮した車両の導入

施策3. 利用の促進

- 3-1 戦略的モビリティ・マネジメントの実施
 - ①公共交通の利用を促す情報提供
 - ②イベントや集会時における利用喚起
- 3-2 バスの乗り方教室の実施
- 3-3 高齢者に向けた利用促進 [外出の動機づくりと利用の不安軽減]
 - ①「おでかけプラン」の作成
 - ②公共交通の使い方講座の実施

施策4. 様々な主体の参画・連携強化

- 4-1 市民の参画強化
 - ①地域が主体となった取組の促進
 - ②市民との利用状況の共有
- 4-2 多様な分野との連携強化
- 4-3 隣接市町との連携強化

(1) 移動ニーズへの対応の観点

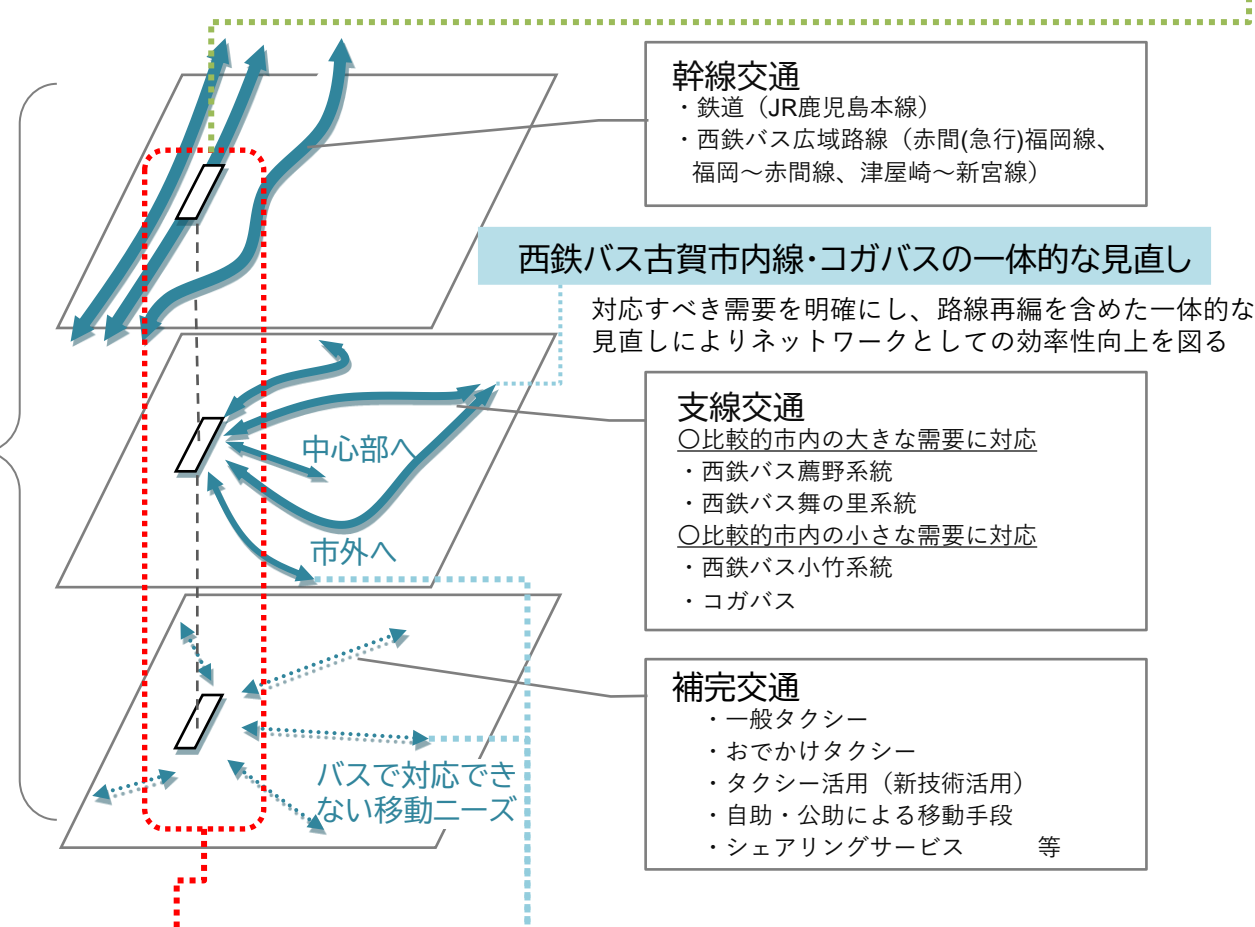
(2) 持続可能性の確保の観点

▲計画の体系

施策1. 交通ネットワークの再構築

○現行路線の見直し(階層化)

〈階層化／駅等の結節点で一体性向上〉



○乗り換えしやすいダイヤの設定

鉄道とバスが円滑に乗り換えられるようにダイヤを調整する。
 各駅において乗り換え方法の案内や周知を実施する。

○対応する移動ニーズの拡大

現状では対応できていないニーズへの対応を検討。
 ①高齢者やバス停から遠い地域の住民
 ⇒新技術による乗合サービス等の導入に向け調査・研究を実施。
 ②市外への移動
 ⇒隣接市町や交通事業者、関係する施設と調整を実施。

○戦略的モビリティ・マネジメントの実施

自家用車の利用を抑制し、「かしこくクルマを使う」意識を醸成する取組みを継続して実施する。
 PDCAサイクルを取り入れ、実施⇒達成状況のモニタリング⇒改善・見直し⇒定量的な効果発現 (利用実績向上等) を目指す。

- ①公共交通の利用を促す情報提供
- ②集会時における利用喚起

○バスの乗り方教室の実施

地域や学校のイベント・行事等において、バスの乗り方教室を開催し、親子で公共交通を利用する機会、あるいは児童を通じて保護者への情報が伝わるようなきっかけづくりを行う。

○高齢者に向けた利用促進 [外出の動機づくりと利用の不安軽減]

運転免許の返納を検討している高齢者等に、自家用車に代わる移動手段として公共交通を選択してもらえるような利用促進を行う。

- ①「おでかけプラン」の作成⇒外出パターンに合わせて利用するバスの案内を作成し、おでかけを促進
- ②公共交通の使い方講座の実施⇒地域の集まり等で公共交通やスマートフォンの使い方講座を実施

施策2. 公共交通を利用しやすい環境の整備

○駅や主要停留所における待合環境や案内誘導の整備

駅や主要停留所において情報提供の充実化や待合環境の整備・美化を実施する。

古賀駅、千鳥駅、ししぶ駅	古賀市役所、サンコスモ古賀、リーパスプラザこが、福岡東医療センター、コスモス館	青柳四ツ角、米多比
〔交通拠点〕	〔拠点施設〕	〔集落拠点〕
鉄道、路線バス、コガバス等、様々な交通モードが結節する本市の公共交通ネットワークの中心。乗り換え利便性を高めることにより、ネットワーク全体の利便性を高める	バス路線沿線の公共施設、商業施設、医療・福祉施設、コミュニティ施設等主要施設。情報提供の充実化、待合環境の整備・美化により、公共交通の利便性を高める。	郊外における集落の拠点。情報提供の充実化、待合環境の整備・美化により、公共交通の利便性を高める。

○公共交通に関する情報周知の強化

広報誌やインターネット等の活用、時刻表や路線図の配布エリアを拡大する等情報の周知を強化する。

○多様な交通サービスの一元化に向けた調査・研究

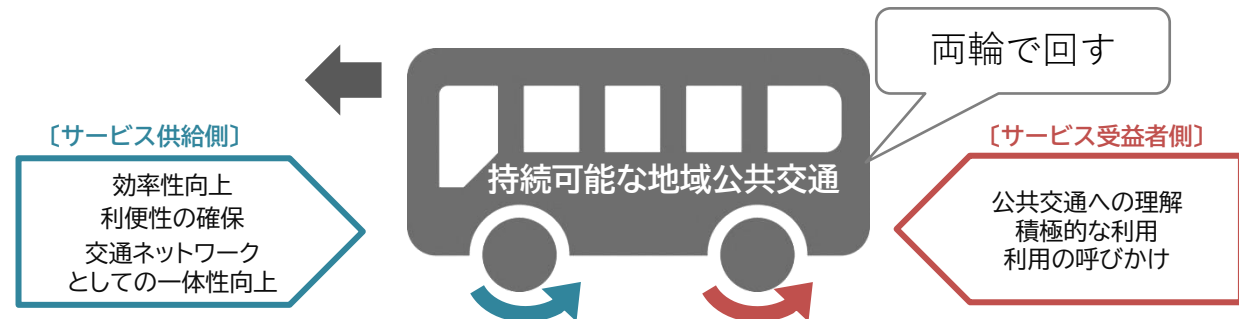
- 様々な移動手段をシームレスに使える環境づくりに向けて取り組む。
- ①情報の一元化⇒時刻検索や駐車場の空き状況やタクシーの予約等、様々な情報の一元化に向け研究。
 ⇒ (将来的) 病院や行政サービスと移動を一括で検索・予約ができることも検討。
 - ②新たな料金体系や支払い方法⇒移動にかかる費用を定額制とする、ICカード等の単一の方法で支払いできるような仕組みを調査・研究。

○車両更新時におけるユニバーサルデザインに配慮した車両の導入

誰もが安全かつ快適に移動できるよう、車両を更新する際は低層車両等のユニバーサルデザインに配慮した車両の導入を推進する。

○市民の参画強化

利用側である市民の参画 (積極的な利用、利用促進) を促すことで持続可能な公共交通を目指す。



- ①地域が主体となった取組の促進⇒地域の移動手段確保に向けた地域協議会の立ち上げ等を支援。
- ②市民との利用状況の共有⇒公共交通の利用状況・運営状況を市民と共有。

○多様な分野との連携強化

計画の推進、施策・事業の推進にあたり、医療、福祉、教育、商業等、環境等、分野間の垣根を越えた連携の在り方について模索していく。

○隣接市町との連携強化

市単独だけでなく、周辺市町との連携を図り、地域の垣根を越えた移動手段の維持・確保や、周知・PR活動、利用促進企画等の取り組みを実施。

施策3. 利用の促進

施策4. 様々な主体の参画・連携強化

評価指標1 鉄道との接続性を確保したバスの便数の割合

西鉄バス古賀市内線及びコガバスの各便のうち、JR3 駅で鉄道との接続性が確保された便数を確保することで、円滑に広域移動できる環境が整備されることが期待される。
 なお、乗り換え時間が5～20分以内の便を“接続性が確保された”ものとする

目標値	単位	現況値	目標値
	%	古賀駅 94%、千鳥駅 69%、ししぶ駅 64%	現状の水準を維持

評価指標 2-1 利用環境の整備割合

駅や主要停留所において、待合環境の改善（ベンチ・上屋の設置、情報案内の改善）及び案内誘導の整備（サインの整備）を行うことで、公共交通を利用しやすくなることが期待される。次のバス停のうち、整備がなされた割合を指標とする。

- ①古賀駅 ②千鳥駅 ③ししぶ駅 ④古賀市役所 ⑤サンコスモ古賀
 ⑥リーバスプラザこが ⑦コスモス館 ⑧福岡東医療センター ⑨青柳四ツ角 ⑩米多比

目標値	単位	現況値	目標値
	%	0	100

評価指標 2-2 時刻表における路線の掲載割合

時刻表に情報が一元化されることにより、利便性が向上し、利用が増加することが期待されます。次の4つの交通モードに関する情報の掲載割合を指標とします。

- ①JR ②西鉄バス（赤間（急行）福岡線） ③西鉄バス（福岡～赤間線・津屋崎～新宮線）
 ④西鉄バス（古賀市内線） ⑤コガバス ⑥高速バス

目標値	単位	現況値	目標値
	%	50	100

評価指標 3 利用促進を図る取組の実施回数

各事業の着実な実行を目指し、実施状況の評価を行う。

目標値	単位	現況値	目標値
利用促進イベントの実施回数	回/年	*	計画期間内に定期的に実施
公共交通の利用を促す情報提供の実施	-	*	計画期間内に定期的に実施
「おでかけプラン」の作成	-	*	計画期間内に実施

評価指標 4 地域協議会の立ち上げ件数

市民の意識醸成を図ることで、地域が主体となって利用促進や新たな移動手段の導入等、移動手段確保に向けた取組を行う「地域協議会」が立ち上がっていくことを目指す。

目標値	単位	現況値	目標値
	件	0	4

基本目標1:地域公共交通の持続可能性の向上

市内交通ネットワークにおいては、広域路線との一体性を高め、移動需要に応じ効率化により運行経費の抑制を図ります。同時に、医療・福祉、まちづくり等の他分野や、隣接市町と連携しながら、新たな技術を取り入れつつ、利便性向上・利用促進に取り組むことで、地域公共交通の持続可能性向上を目指す。

〔指標1〕 市内路線の収支率

〈運行経費に対する運行収入の割合〉

〔現況〕

西鉄バス古賀市内線：46.3%
 コガバス：18.0%
 (R1年度)

〔目標〕

西鉄バス古賀市内線：50%
 コガバス：25%
 (R6年度)

基本目標2:利用の増加

運行内容の見直しや、利用環境の改善、利用する上で必要な細やかな情報提供を行うことで、市民に地域公共交通の利便性を感じてもらえるようにするとともに、市民の理解・関心を高めることで、公共交通を利用する機運を高め、市民の利用が増加していくことを目指す。

〔指標2〕 市民一人当たりの市内路線の年間平均利用回数

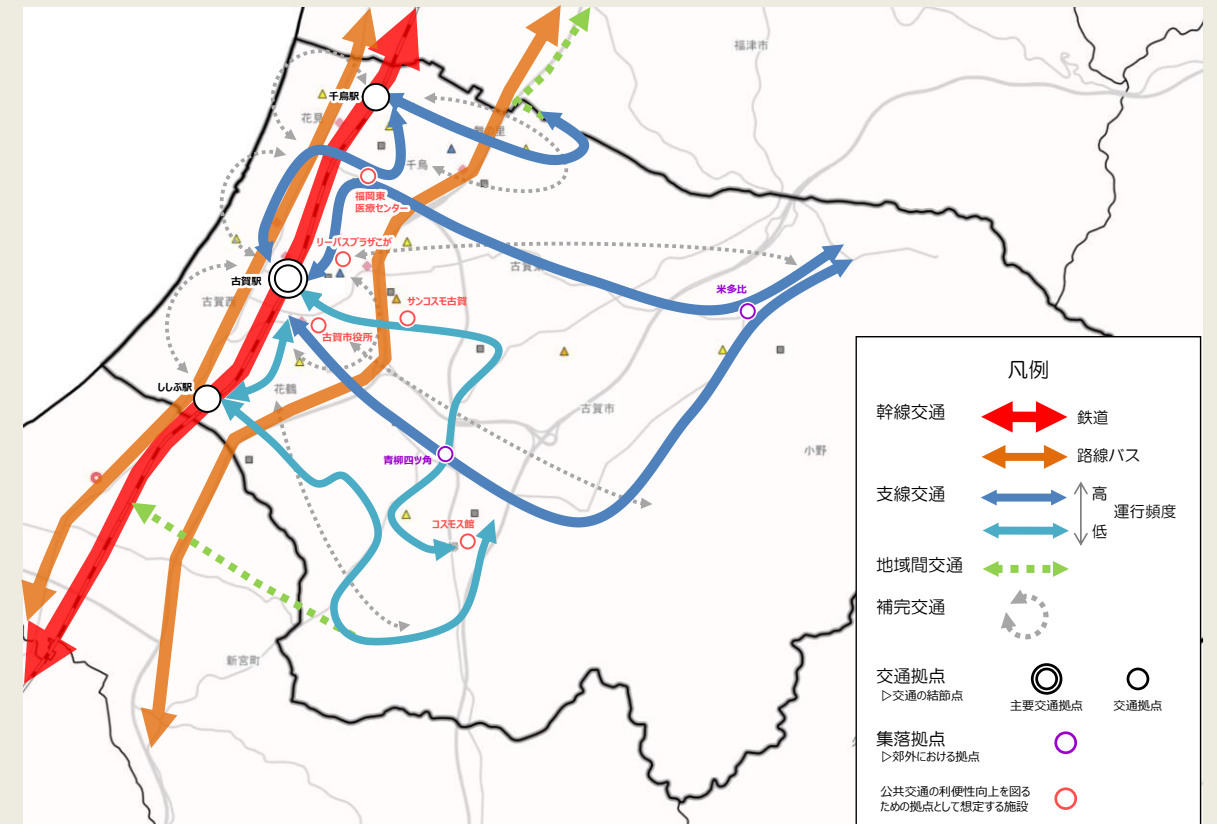
〔現況〕

3.95回/年 (R1年度)

〔目標〕

4.30回/年 (R6年度)

公共交通ネットワークの将来イメージ



計画における目標の達成を目指す
 横断的に施策・事業を展開